



何事も「過ぎたるは」.....

こんにちは！お元気ですか??？ いやー、日本酒フェアは楽しかったです！ 各県のお酒が楽しめちゃうんですから！ それにご当地自慢の食品の試食や販売などもありましたからなおさらですね。

やっぱりお酒はそれ自身を楽しむのももちろんですが、酒の肴も一緒に楽しめたらなお愉し、だなあと考えた次第です。各県のブースもそれぞれ工夫を凝らされていて、年々進化しているなー、と皆さんの設営のご苦労をよそに、完全にお酒大好き人間モードで会場内をあちこちフラフラ歩き回っておりました。来年も楽しみにしておりますー！！

さて、話はかわりますが・・・どうも最近、あれこれ規制がかかりすぎていぶん窮屈な世の中になったと感じるのですが、アルコールの自主規制云々が取り上げられている番組などを見ると、アルコールを供給する側が悪いのではなく、それをたしなむ個人の問題なんだがなぁ〜と思わずにはいられないのです。昔から「酒は百薬の長」「酒は憂いの玉箒」などという言葉もあるわけですし、何事も「過ぎたるは及ばざるがごとし」になっちゃうわけです。これは何もアルコールだけの問題ではないでしょう。例えば、体のことを言うならば、ファーストフードの取りすぎだって大きな社会問題のほうですよ（かくいう私も結構好きなので食べますが・・・）要は「適量」「適当」「バランス」が大切なのでは？と思うのです。

政治絡みの話をするとなんかそれぞれの立場や考え方もあるのであまり宜しくありませんが、よくテレビに出てこられる一部の政治家さんたちは「国民の皆様が」という言葉を頻繁に使われるわけですが、本当に「国民の皆様」の声を聞いているのかしら？と非常に疑問を感じます。結構「偏った声」を聞いているのではないかな、と思わずにいられないこともあります。また時としてそれが国民の声と違ったとしても、国家の大事を成すためには決断をしなければならぬこともあるかもしれません。参院選を前に、それぞれ票の確保で忙しいのでしようが、世界情勢が刻々と変化をしている中で「バランス感覚」を持って国政にあたって欲しいと思うこのごろです。

日本の野鳥シリーズ

声の仏法僧

技術営業部 佐藤 弘

夜更けの深山で仏法僧と鳴くのは手に乗るほど小形のフクロウ、コノハズクであり、ブッポウソウという和名を持つ鳥が別にいる事は、少し鳥に明るい方ならご存知と思う。だから、それぞれ声の姿のと呼び分けないと混同してややこしい事になる。

ブッポウソウの羽色は青と緑で、太くて短い嘴と脚が赤だから「おまえ場違い、ジャングルの方が似合う」と言いたくなる。声はガマガエルと似て勝負「グェ、グェ」と鳴く。新潟では稀少種の部類なのに、是非見たいという追っかけは何故か少ない。

コノハズクの春の渡りは遅く、新潟辺りには夏鳥がほぼ渡り終えた5月連休過ぎに東南アジアからやってくる。新潟市最寄りでは、車で1時間そこそこで行ける胎内川上流域でその声を聞くことができる。そこで梅雨入り目前の6月半ば過ぎ、仏法僧を子守歌に、よせばよいのにヨタカとアカショウビンを目覚ましにしよう、そして各自腕におぼえの野外料理を作ろうと、男女14人の元々青年それに現役青年たちがキャンプを企てた。

夏至近く暮れなすむブナの森で、人間サマが何とか食べそうな物を並べて車座の酒盛りを始めた。だが例の青シートを張ったから、誰の目にも「ホームレスがこんな山中に？」と見えただろう。辺りが闇に包まれ宴も静まる頃、遠くで本種が「ウツツー」と鳴き出した。正確かつ単調な4拍子のリズムの反復には催眠作用があるようで、寝入る人が続出。確かに子守歌になった。

翌未明ヨタカの大声に夢破られ、やつらの嘴を輪ゴムでしばりたい思いの中、夜が明けてアカショウビンが鳴き始めた。声はすれども姿は見えぬ朱色のカワセミだが、ここでは駐車場にさえ現れるから、これ目当てに東京方面から新幹線で来る鳥キチ御一行のツアーがあるという、一泊二日6万円近くかけて...

いい酒に闇と小さな炎のゆらめき、それに静寂と仏法僧。ある意味贅沢な時が流れる、こんな空間を身近に持つ喜びを仲間たちは語る。しかし、早すぎた目覚めに全員寝不足で朝食後にまた一眠りする始末。どうにもしまらない。

酒蔵さんとの長ーいおつきあい

第25話
取締役会長 大辻 英郎

新潟県の南端と北端間の直線距離は250km、国道を自動車ですっ走り6時間余り掛かります。南端の糸魚川市は、大地溝帯フォッサマグナの北のはずれに位置します。ここは加賀街道の本陣があったところですが、大名行列は親不知・子不知の難所をどのように越えたのでしょうか。糸魚川市では、5軒の蔵元が少し甘口が特徴のお酒を世に出しています。蛇足ながら、神代の昔に大国主命との恋に落ちたご当地の奴奈姫は、特産のヒスイの首飾りを掛けた美女だったとのこと。私も首飾りならぬ、お守りになるというヒスイの勾玉を車の鍵に付けています。

また、県北部の村上市は鮭に関して比類ない食文化を持つ城下町です。友人のきっかわ哲生氏はそこで地物の海産物を中心に、美味探求に取り組んでいます。彼が出す麴の香りはふくよかですっきりした甘味は甘酒にしてよく、夏の盛りに冷やして飲めば食が進まない病人も元気になること請け合いです。その麴と塩引鮭とはらこで作る鮭の飯館は、地酒とピッタリの相性で人気を博しています。

麴の手入れ一つで美味しい食品になり、素晴らしいお酒になる。日本酒の消費量は次第に減少していますが、業界、関係者が一体になって食と日本酒文化の啓蒙に努めれば、本来の姿になるのではないのでしょうか。



次号につづく

今年も白根大風合戦・・・ところが・・・

エッセイ 生産資材主任 高野 修一

大風合戦の日が来た。綱引きで力が出るように昼食をラーメンから定食に変え、近接撮影用に広角レンズも用意して準備万端で会場に乗り込んだのに様子が変わる。西風が吹いている。本来ならば川下からの北風を受けて川と平行に大風を揚げ、次に風と風を絡ませて川に落とし綱引きを始める。

しかし西風では西岸側の風揚げには問題無いが、東岸側の風は川と反対側の市街地の上に揚がってしまい、風と風を絡ませることが出来ない。かろうじて操作性の良い小型の風同士がうまく絡ませることができたが、綱が細いため引き合うとすぐに切れてしまう。更に操作を誤って墜落する風も多く、ビルの屋上や民家の屋根だけでなく見物客の頭上にも落ちて来る。カメラのファインダーを通して風が急速に迫ってくるので、とっさにしゃがんだら肩をかすめて風が背後に落ちた。こんな調子で風揚げは残念な結果だったが、視線を空から地上に移してみたら別な物が目に入った。

風を揚げる組の人達が着ているハッピーの背中には、組の名前や印がデザイン（和服だから絵柄かな）されており、さながら江戸職人の印半纏のようだ。それぞれが個性的だし遊び心の有る絵柄には「粋だねえ」と感心させられてしまう。このハッピーを着た人達が風や綱を堤防に運び上げ、紐で結んで風揚げの準備をしている。黙々と準備作業するハッピーの後姿には、描かれた絵や文字と共に組の誇りも感じられる。そして綱を握り全力で走っている後姿にも、風といっしょに組の名も上げようとする意気込みが見える。来年は風よりもハッピーの後姿にピントを合わせてみたい。

ちょっと豆知識 その5



毎度「他人のふんどしで相撲をとる」ような状況で甚だ恐縮ですが、今回も、弊社のお客様である山形県の某蔵・S部長様より有用な情報をお聞かせいただきましたのでご報告いたします。

S部長さんのところでは、タンク内部の洗浄時、若いスタッフの方が長靴を履き、タンクの中に入って作業をされるのだそうですが、滑りやすく危険な作業であることから、かつてタンク洗いは最も敬遠される作業の一つであったとのこと。

そこでS部長さんは、「滑りにくい長靴」を探すべく手を尽くし、同じ業界のある方から、「タンク洗いの時に滑りにくい長靴」を教えていただき、購入して実際にタンク洗浄時に履いてみたところその効果に驚いたとか。若いスタッフの方にも履かせてみましたが、一様にその滑りにくさに驚いて、その後タンク洗いを厭うスタッフは居なくなったとのこと。

さてこの長靴、どれくらい滑りにくいのか。「滑りにくさ」を文面でお伝えすることは難しいですが、今回、新潟県内で開催された酒造業界のイベント会場にお邪魔して、「業界で一番使われている長靴」と、ご紹介する「滑りにくい長靴」の滑りやすさを比較するテストを実施させていただきました。その時の様子をご紹介します。

長さ90cmの鉄板にビニールを巻き付け、その一端を高さ15cmの角材に載せスロープを作ります。その角度は約9.5°。雰囲気的にはドーム状のタンク底板のへり部分より幾分緩い感じの傾斜です。そこにグリセリンを塗布し、片足に「一番使われている長靴」、もう一方に「滑りにくい長靴」を履いていただき、会場にいらした方々に、スロープ上を歩いていただきました。

結果は、「一番使われている長靴」での歩行は極めて困難でしたが、「滑りにくい長靴」では殆ど滑ることなくスロープ上を歩行出来ました。普段からタンクの中に入ることもある業界の方々が口々に「これは凄い」とおっしゃっておいででした。

私自身もタンクの中で滑って転んで痛い目に遭ったことのある一人です。聞いた話だと、タンク内で転倒した際に持っていたモップのようなもので底板のグラスライニングを破損し、タンク1本ダメにした方もいらっしゃるとか。

「転ばぬ先の杖」ならぬ「転ばぬ先の長靴」。

今年1月、年始のご挨拶でお邪魔した際、S部長さんから「成田さんここでこの長靴扱えるようにならないかなあ」とのご相談をいただき、メーカーと交渉を重ねた結果、この度販売店として認めていただくことが出来ました。資料等を用意しております。

この機会に是非お問い合わせください。文責：技術営業部 成田 護